

# ハッピーエンディングを迎えるには お金で解決できないリスクに備える “もうひとつの保険”が必要です

「終活」への関心が高まる中、一般社団法人日本Happy Ending協会は誰もがハッピーエンディングを迎えられるよう人生の様々なリスクへの対応法を伝えている。ハッピーエンディングを迎えるために必要な備えや協会の活動内容について、齋藤真衡代表理事にお話を伺った。

## 保険や貯蓄だけでは リスクへの備えは不十分

――まずは、協会が考える「ハッピーエンディング」や協会の理念についてお聞かせください。  
齋藤 人生の砂時計は残された砂の量が見えないため、いつ砂がなくなるのかわかりません。ピンピンコロリと死を迎えることができれば幸せですが、体が不自由になってしまったり、意思能力を失ってしまったりすることも多いものです。

こうした事実を受け入れるとともに人生の様々なリスクを知って事前に備えておくことができれば、安心して楽しく人生を過ごすことができ、ハッピーエンディングを迎えられる可能性が高まるのではないのでしょうか。  
一方で、これまでのリスクマネジメントは、お金の問題をどう解決するかに焦点が当てられていたように思います。しかし、超高齢社会のいま、それだけで

は十分とはいえないのです。

一例を挙げると、介護費用に備えるために民間の介護保険に加入したとしても、重い介護状態になり体が不自由になったとしたら、誰かに保険金を請求してもらわなければなりません。しかし、すでに配偶者が他界している、あるいは同じく介護状態にあるケースも十分に考えられます。また、近親者など保険金の受取人がいたとしても、その保険金が本人の意図どおりに使われるとは限りません。

つまり、ハッピーエンディングを迎えるには、保険や貯蓄などでは解決できないリスクに備える、もうひとつの保険を用意しておくことも重要なのです。  
ここでいう、もうひとつの保険には、認知症を患ったときのために「任意後見制度」を活用する、終末期医療の際に「緩和ケア」や「延命治療」を行うかを決めておく、もしものときのために「遺言」を書いておく、



齋藤真衡

一般社団法人日本Happy Ending協会 代表理事